

NPO法人アートNPOリンク

近年各地で生み出され展開されてきたさまざまなアートプロジェクトを通じて、アートは社会の課題解決と無縁でなく、多様な価値を創造する社会的な存在であるとの認識が生み出され、その波動は徐々に社会に浸透してきました。今後その認識がさらに拡張されるためには、私たちが市民の視点からアートを語り、アートとは何かを捉え直し、市民が当事者となって主体的にアートに参画していくことが必要です。そのためにアートNPOは、私たちひとりひとりがアートを創造的に使いこなしていくための仕組みづくりを担い、さまざまな手法やソフトを創り出してきました。また、アートNPOは、《創造都市》の担い手として、さらには、社会的多様性や表現の自由を保障する存在として期待が寄せられています。

今年度は、そのようなアートNPOのひとつ、NPO法人クリエイティブサポーターシップと協働し、全国アートNPOフォーラム in 浜松を開催します。障害のある人たちに光をあて、人々の価値観や固定概念といった社会規範を変えうる創造力を発揮する存在として、彼/彼女らがアーティストであると活動するその姿勢に、強く共感を覚えます。障害者福祉、教育、地域振興、そしてアート、行政組織や民間企業、NPOの領域を横断したクロスセクタラルなその活動からこれからの社会について語り、ともに学びます。いま改めてアートについて問い直すフォーラムにご期待ください。

NPO法人クリエイティブサポーターシップ
理事長 久保田 梨

「人が幸せに生きるとはどのようなことだろうか？ 幸せは人それぞれ異なる形があると思います。しかし、今、「あなたは幸せですか？」と問われて、「ハハ幸せです」と答えられる人はどれだけのでしょうか。物質的な充足だけでは人は幸せを享受できないと知ってしまった現代で、それぞれの幸せの形は、多様にあつていいはずですが、何かの規範、価値観、世間体といったものに私たちは相変わらず縛られているように思います。

NPO法人クリエイティブサポーターシップは、2000年の設立から、「障害のある人、子ども」の生き方、在り方を通して、「人が幸せに生きる」ということを考えてきました。そこで見えてきたことは、人々を縛っているモノコトから解放する「何か」が、障害のある人たちの営みの中にあること。そこからさまざまな問いが生まれ、私たちが描き語り、そうしたこと、 「社会を変える」 種になるのではないかとということです。今回のフォーラムでは、さまざまな実例をご紹介します。体験を通して、そうした立場の人たちの生きる姿が、地域社会の新しい創造力の担い手として、どう捉えていけばいいかを、みなさまともに、考えていきたいと思えます。

NPO法人アートNPOリンク

近年各地で生み出され展開されてきたさまざまなアートプロジェクトを通じて、アートは社会の課題解決と無縁でなく、多様な価値を創造する社会的な存在であるとの認識が生み出され、その波動は徐々に社会に浸透してきまし。今後その認識がさらに拡張されるためには、私たちが市民の視点からアートを語り、アートとは何かを捉え直し、市民が当事者となって主体的にアートに参画していくことが必要です。そのためにアートNPOは、私たちひとりひとりがアートを創造的に使いこなしていくための仕組みづくりを担い、さまざまな手法やソフトを創り出してきました。また、アートNPOは、《創造都市》の担い手として、さらには、社会的多様性や表現の自由を保障する存在として期待が寄せられています。

今年度は、そのようなアートNPOのひとつ、NPO法人クリエイティブサポーターシップと協働し、全国アートNPOフォーラム in 浜松を開催します。障害のある人たちに光をあて、人々の価値観や固定概念といった社会規範を変えうる創造力を発揮する存在として、彼/彼女らがアーティストであると活動するその姿勢に、強く共感を覚えます。障害者福祉、教育、地域振興、そしてアート、行政組織や民間企業、NPOの領域を横断したクロスセクタラルなその活動からこれからの社会について語り、ともに学びます。いま改めてアートについて問い直すフォーラムにご期待ください。

NPO法人クリエイティブサポーターシップ
理事長 久保田 梨

「人が幸せに生きるとはどのようなことだろうか？ 幸せは人それぞれ異なる形があると思います。しかし、今、「あなたは幸せですか？」と問われて、「ハハ幸せです」と答えられる人はどれだけのでしょうか。物質的な充足だけでは人は幸せを享受できないと知ってしまった現代で、それぞれの幸せの形は、多様にあつていいはずですが、何かの規範、価値観、世間体といったものに私たちは相変わらず縛られているように思います。

NPO法人クリエイティブサポーターシップは、2000年の設立から、「障害のある人、子ども」の生き方、在り方を通して、「人が幸せに生きる」ということを考えてきました。そこで見えてきたことは、人々を縛っているモノコトから解放する「何か」が、障害のある人たちの営みの中にあること。そこからさまざまな問いが生まれ、私たちが描き語り、そうしたこと、 「社会を変える」 種になるのではないかとということです。今回のフォーラムでは、さまざまな実例をご紹介します。体験を通して、そうした立場の人たちの生きる姿が、地域社会の新しい創造力の担い手として、どう捉えていけばいいかを、みなさまともに、考えていきたいと思えます。

新しい生活のためのアート

2015 3/6 [金]・7 [土]・8 [日]
全国アートNPOフォーラム in 浜松

支援会議



【会場①】
のづあ公民館
（アリス・ノヴァから徒歩3分）

【会場②】
障害福祉サービス事業所
アリス・ノヴァ

「生きるためのアート」
シンポジウム

「社会包摂と創造都市」
アイデア・フォーラム

「スタッフor利用者、あなたはどっち?!」
一日利用体験

「人として生きる場所」
かたりのうゑ

「アートNPOのネットワークは、なにを可能にするか」
三日間の振り返りと全体フォーラム

その他、ワークショップなどが
詰まってる日間!

お申込み方法
必要事項を明記のうえ、お申込みください。

- ①氏名 ②ご所属 ③電話番号
- ④メールアドレス ⑤参加日 ⑥プログラム名

※3月7日に行われる「1日施設体験」の「体験者」にご参加の方は、アイデア・フォーラムにはご参加いただけません。

※HPから申込み紙をダウンロードいただけます。
NPO 法人クリエイティブサポーターシップ
〒432-8061 静岡県浜松市西区入野町 8923-4
tel 053-440-3176 / fax 053-440-3175
mail lets-arsnova@nifty.com
HP <http://cslets.net/>

●参加費は各自受付時にお支払いください。●経済的にお支払いが困難な方はご相談ください。●やむを得ない事由により、整理券や内容が変更になる場合があります。●お電話番号は、営業時・緊急時に限り使用させていただきます。●お寄せいただいた情報は予約にのみ使用し、目的外での使用は一切いたしません。

協賛 = **Asahi** アサヒ TOYOTA トヨタ

主催 = NPO 法人クリエイティブサポーターシップ / NPO 法人アートレット / NPO リンク 共催 = 静岡県 / 浜松市 助成 = 公益財団法人福武財団
後援 = 静岡新聞社 / 静岡放送 / 中日新聞東海本社 / 浜松市社会福祉協議会 / 浜松商工会議所
会場 = 障害福祉サービス事業所アリス・ノヴァ / のづあ公民館



会場は「のヴぁ公民館」^{のヴぁ公民館}と、
「障害福祉サービス事業所アルス・ノヴァ」^{アルス・ノヴァ}です。
会場を事前にご確認のうえ、ご参加ください。

タイムスケジュール

のヴぁ公民館

3月6日(金) 13:00~

13:00-13:30
主催者挨拶 / 来賓挨拶

13:30-19:00
シンポジウム「生きるためのアート」

会場: のヴぁ公民館 参加費: 1,000円

13:30-15:00
【第1部】生きるためのアート～現場から～

話題提供①「生きるためのアート わたしと家族と、レッツ」
久保田翠 (NPO法人クリエイティブサポートレッツ 代表)

話題提供②「アルス・ノヴァの現場から」
尾張美途、佐藤啓太、山下健太 (アルス・ノヴァ職員)
小林橘花 (アルス・ノヴァ元職員)

話題提供③「たけし文化センターの展開」
1. 「たけし文化センターから現在まで」
鈴木一郎太 (株式会社大と小とレフ 取締役)
2. 「のヴぁ公民館の試み」
NPO法人クリエイティブサポートレッツ スタッフ

15:30-19:00
【第2部】生きるためのアート～多様性、寛容性のある社会を目指して～

話題提供④「子ども・若者の居場所から」
渡部達也 (NPO法人ゆめ・まち・ネット 代表)

話題提供⑤「多様な人々と生きる現場」
上田假奈代 (NPO法人こえとことばとこころの部屋 代表)

16:10-19:00 シンポジウム
「生きるためのアート～多様性、寛容性のある社会を目指して～」

パネリスト
池上重弘 (静岡文化芸術大学文化政策学部 教授)
上田假奈代 (NPO法人こえとことばとこころの部屋 代表)
大友良英 (音楽家)
佐々木雅幸 (同志社大学経済学部 特別客員教授)
高木誠一 (浜松協働学舎根洗寮 施設長)
渡部達也 (NPO法人ゆめ・まち・ネット 代表)

モデレーター 久保田翠

19:30-21:00
交流会 (会場: アルス・ノヴァ)

池上重弘 Ikegami Shigehiro
静岡文化芸術大学文化政策学部教授。北海道札幌市生まれ。北海道大学大学院文学研究科修了。同大助手、静岡国立大学短期大学部専任講師、静岡文化芸術大学助教授を経て、2008年より同教授。外国人集住都市会議アドバイザー、浜松市外国人子ども支援協議会会長等、日本社会の多文化・多民族に伴う地域の問題を政策的に研究している。

上田假奈代 Ueda Kanayo
詩人。NPO法人こえとことばとこころの部屋代表。1969年生まれ。3歳より詩作。17歳から朗読をはじめ、92年から詩のワークショップを行う。01年「詩業宣言」し、全国で活動をつづける。03年コラムをもちあげ「表現と自律と仕事と社会」をテーマにアートNPO、NPO法人こえとことばとこころの部屋を設立。

大友良英 Otomo Yoshihide
音楽家。1959年横浜生まれ。実験的な音楽から「あまちゃん」の劇伴まで、その作風は多種多様。2005年より知的障害のある子どもたちの音楽活動「音遊びの会」に参加。現在も活動を続けている。震災後は十代を過ごした福島でプロジェクトを立ち上げるなど、音楽にあきらまない活動でも注目される。

久保田翠 Kubota Midori
NPO法人クリエイティブサポートレッツ理事長。芸術大学院卒業後、ランドスケープデザインの仕事に従事。1994年に長男の出生。障害のある長男の育てをきっかけに、クリエイティブサポートレッツ設立。04年NPO法人化。08年たけし文化センター事業スタート。10年障害福祉施設アルス・ノヴァ開設。11年たけし文化センターINFOLOUNGEを経て、14年ののヴぁ公民館開設。

佐々木雅幸 Sasaki Masayuki
同志社大学経済学部特別客員教授。金沢大学経済学部教授。大阪府立大学大学院都市研究科教授を経て、2014年4月より現職。並びに大阪府立大学特別客員教授。文化庁文化芸術振興局長(日本)を2010年度まで文化庁市庁舎建設City, Culture & Societyの編集長を務める。主に、「創造都市の経済学」、「創造都市への挑戦」、編著に「創造都市」、「創造都市への展望」、「創造都市と社会包摂」など。

鈴木一郎太 Suzuki Ichirota
株式会社大と小とレフ取締役。英国でアーティストとして活動。帰国後1997年からNPO法人クリエイティブサポートレッツにて様々な事業の企画運営に携わり、2013年12月、「大と小とレフ」を設立。建築家の大東賢二との共同経営で、設計・建築イベント企画を手掛け、浜名湖花博2014では主催者展示エリアのキュレーション、万年橋パークビル1階のセミナースペース「黒板とキッチン」の企画運営などを担当。

高木誠一 Takagi Seichi
浜松協働学舎根洗寮施設長。大学卒業後、社会福祉法人ひかりの園に就職。障害児、障害者の療育、支援に携わり、1997年より現職。障害のある人が地域で生活していくための多くの活動に参画。権利擁護、後見人制度、就労開発など、静岡県、浜松市のさまざまなNPOの役員を兼務している。

立木祥一郎 Tachiki Shoyichiro
合同会社 tecol LLC 代表。美術館学芸員を経て2008年itecol LLCを設立。観光館や博物館などの公共施設設計、展示設計、店舗、農産物のブランディング、製品開発でヒット商品を生み出し、4年連続で5つのGOODDESIGN賞を受賞する。大館・北秋田芸術祭2014アートディレクター。青森市版アーツカウンシル「アートでオン！」の設立に携わる。

西川勝 Nishikawa Masaru
大阪大学コミュニケーションデザインセンター特任教授。精神科病棟で看護師。人工血液透析、老人介護施設等々、20数年現場で経験を積みつつ、関西大学や大阪大学大学院文学研究科で哲学学修士。現在は認知症ケアに関するコミュニケーションの研究・実践を行っている。著書に「ためらいの看護」、「となりの認知症」、「一人のうらに尾崎尚哉の鳥」。

根本敏行 Nemoto Toshiyuki
静岡文化芸術大学文化政策学部教授。三菱総合研究所主任研究員、兵庫大学経済情報学部教授、同大学付属研究所長を経て現職。2014年より浜松市創造都市推進会議委員。専門は、文化政策、創造都市づくり、都市・地域経営等。著書に「検証・イギリスの都市再生戦略」、「市民力ソーシャル・マーケティングのすすめ」など。

吉本光宏 Yoshimoto Mitsuhiro
ニッセイ基礎研究所・研究理事。1989年入社、2014年から現職。国立新美術館、いわきアリオス等の文化施設開発、東京国際フォーラム等のアートワーク計画などのコンサルタントとして活躍。文化政策、創造都市等の調査研究に携わり、文化政策部会委員、創造都市横浜推進委員会委員長などを歴任。撮影: 杉金孝

渡部達也 Watanabe Tatsuya
NPO法人ゆめ・まち・ネットと代表。静岡県浜松市39歳で退職し、2004年NPO法人ゆめ・まち・ネットを立ち上げ、公園や川での「冒険遊び場 たっこパーク」を開発。空き店舗を活用した「子どもたちのたまり場・大人のたまり場/おもしろ荘」を開所。個性的な子どもたち、生き生きとかわるがわるの子どもたちの居場所づくりに取り組んでいる。

10時
11時
12時
13時
14時
15時
16時
17時
18時
19時
20時
21時

3月7日(土) 10:00~

10:00-16:00
1日施設体験「スタッフ or 利用者、あなたはどっち?!」

会場: アルス・ノヴァ 参加費: ①施設体験/3,000円(お弁当当分) ②施設見学/500円

アルス・ノヴァの利用者になってみよう! アルス・ノヴァは、障害の区分に関係なく、利用者のやりたいことや好きなこと、得意なことをスタッフといっしょになって取り組んでいます。あなたもアルス・ノヴァの利用者になって、一日を過ごしてみませんか。ありのままの自分をみつけられるかも?!

- ①施設体験(6名・要予約)
・利用者、スタッフに分かれ、アルス・ノヴァで現場体験をします。
- ②施設見学(50名・要予約) ※90分入替制
・アルス・ノヴァの日常を自由に見学します。(ガイド付)

1日施設体験の詳細・お申込み方法については、
クリエイティブサポートレッツHPをご覧ください。

HP→<http://cslets.net/>

13:00-15:00
アイデア・フォーラム「社会包摂と創造都市」

会場: のヴぁ公民館 参加費: 無料

立木祥一郎 (合同会社 tecol LLC 代表)
吉本光宏 (ニッセイ基礎研究所 研究理事)
根本敏行 (静岡文化芸術大学文化政策学部長)

地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動を通して市民の暮らしの質や豊かさを高めていく「創造都市」。浜松市が掲げる創造都市アクションプランを紐解き、いま私たちが考える創造都市について話し合います。

13:30-15:30
投げ銭ライブ「不思議の国とアルス vol.2」

会場: アルス・ノヴァ 参加費: 投げ銭

【出演者】
南中野 (即興ノイズバンド)
ムラキング (詩人)
HEAVY OGA TURBO CAMPS (対話型即興音楽) and more...

16:00-18:00
かたりのヴぁ「人として生きる場所」

会場: のヴぁ公民館 参加費: 寄付制

ファシリテーター
西川勝 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任教授)

のヴぁ公民館を会場に、一年を通して開催中の「かたりのヴぁ」。話すこと、聞くこと、そしてなによりも共にいることを大切に、哲学的対話の場を設けてきました。20回目となるかたりのヴぁは、「人として生きる場所」をテーマに、参加者とともにその「問い」を吟味します。

20:00-22:00
交流会 (会場: 浜松駅周辺)

アルス・ノヴァ
10時
11時
12時
13時
14時
15時
16時
17時
18時
19時
20時
21時

3月8日(日) 10:00~

10:00-12:00
支援会議

受付: アルス・ノヴァ 会場: アルス・ノヴァ、のヴぁ公民館 参加費: 寄付制
ファシリテーター 障害福祉サービス事業所アルス・ノヴァ スタッフ

支援会議とは…?!
福祉施設において、施設利用者の目標実現のために支援計画を作成し、適切なサービスを行うために利用者の状況や課題等を共有し、支援の方針を決めるために定期的に行われる会議のことです。

アルス・ノヴァでは複数の職員が利用者一人の自己実現のみならず、人としてのあり方についても話し合い、各職員が支援内容を留意します。今回の分科会では実際に支援会議に参加してもらい、施設職員以外のサポートによる可能性を探ると共に、福祉の創造性と課題を感じてもらいたいと思います。

13:30-15:30
3日間の振り返りと全体フォーラム
「アートNPOのネットワークは、なにを可能にするか」

会場: のヴぁ公民館 参加費: 寄付制

アルス・ノヴァ/のヴぁ公民館での3日間を振り返るとともに、アートNPOのネットワークは、社会になにをなしえるのか、なにを可能にするのかについて話し合います。ここでの話し合いは、これからの政策提言に役立てられます。

15:30-16:00
おわりに

他にも開催! 関連イベント!!

「お手軽佐藤ツリーリスト”ききっこ”」～アルス・ノヴァ博覧会～

日時: 2015年3月1日(日)～3月31日(火)
会場: 障害福祉サービス事業所アルス・ノヴァ、のヴぁ公民館
入場料: 無料

施設で日々巻き起こる様々なエピソードは、大量がゆえに積み重なり、古いものや些細な事柄は埋もれていきます。しかし、アルス・ノヴァはそれらを発信することを諦めません! 今回は福祉施設職員が日常的にできる発信、記録編集に焦点を当て、みんなの居場所「のヴぁ公民館」と共に新しい現場発信の形を提案していきます。

「どいらいら障害」
～「ほとんど知らなかったグッズと人に出会える本」出版記念トークイベント～

日時: 2015年2月10日(火) 17:00～18:00
会場: 障害福祉サービス事業所アルス・ノヴァ
ゲスト: 『ほとんど知らなかったグッズと人に出会える本』スタッフ
司会: アサダワタル
レッツでは、浜松市の委託を受けて、障害のある人を紹介する「ほとんど知らなかったグッズと人に出会える本」をつくりました。取材する中で見てきていた、かたりの持つユニークさや面白さをどう捉えればいいのかを考えます。

「芸術祭・福祉・インクルージョン」

日時: 2015年2月10日(火) 18:30～20:30
会場: 障害福祉サービス事業所アルス・ノヴァ
ゲスト: アサダワタル 上田假奈代 久保田翠 栗栖良依
今年度レッツで行った障害福祉施設の芸術祭参加に向けた取り組みの中で見てきたこと、そしてゲストそれぞれの取り組みを紹介し、マイノリティな人々とアートの結び付きが社会にどう影響を与えているのかなどを、ゲストを交えて語りあいます。